

修士課程における学位論文に係る評価基準

日本語・日本文学で研究するものは、伝統的人文学領域の創造的継承と新しい学問領域の構築を目指すとともに、地域の基盤社会を支える豊かな学識と実践能力を有し、学術的「知」の創造を拡大させるような貢献をなさなければならない。

このような理念のもと、基礎的な研究能力と高度な専門性を有するという両面が求められる博士前期課程においては、指導教員による演習 8 単位を含めた合計 32 単位以上を修得し、修士論文を提出することとする。

(審査体制)

修士論文の審査は、主査 1 名及び副査複数名の審査委員の合議で行う。その後、文学研究科委員会で報告する。

(評価項目と評価基準) 上記の評価項目すべてを満たす学位申請論文を、最終試験を経た上で、修士論文として合格とする。

1. 研究テーマの適切性
2. 研究方法の適切性
3. 資料・文献・データ処理の適切性
4. 先行論文との整合性
5. 分量の適切性 (四〇〇字詰原稿用紙 2 0 0 枚程度)
6. 研究の独自性
7. 研究における学術的貢献

博士課程における学位論文に係る評価基準

日本語・日本文学で研究するものは、伝統的人文学領域の創造的継承と新しい学問領域の構築を目指すとともに、地域の基盤社会を支える豊かな学識と実践能力を有し、学術的「知」の創造を拡大させるような貢献をなさなければならない。

このような理念のもと、基礎的な研究能力と高度な専門性を有するという両面が求められる博士前期後期においては、指導教員による研究科目12単位以上を修得し、博士論文を提出することとする。

(審査体制)

修士論文の審査は、主査1名及び副査複数名の審査委員の合議で行う。その後、文学研究科委員会で報告する。また、副査のうち1名は、専門性を勘案して、外部に委嘱する場合もある。

(評価項目と評価基準) 上記の評価項目すべてを満たす学位申請論文を、最終試験を経た上で、博士論文として合格とする。

1. 研究テーマの適切性
2. 研究方法の適切性
3. 資料・文献・データ処理の適切性
4. 先行論文との整合性
5. 分量の適切性(四〇〇字詰原稿用紙500枚程度、但し論文博士の場合はそれ以上とし、上限を設けない)
6. 研究の成果の確保(学術論文を2本以上公にしていること)
7. 研究の独自性
8. 研究における学術的貢献